

第2部 財務報告

1 普通会計財務書類の要旨

(1) 貸借対照表

貸借対照表とは、荒川区が住民サービスを提供するために保有している財産(資産)と、その資産をどのような財源(負債・純資産)で賄ってきたかを総括的に示したもので、資産合計額と負債・純資産合計額が一致し、左右がバランスしている表であることから、バランスシートとも呼ばれます。

<表1-1 普通会計貸借対照表の要旨>

(単位:百万円)

【資産の部】	平成25年度	平成26年度	増減	【負債の部】	平成25年度	平成26年度	増減
1. 公共資産	230,098	232,699	2,602	1. 固定負債	27,587	27,137	△ 449
(1) 有形固定資産	220,476	223,061	2,585	(1) 地方債	17,301	17,486	185
(2) 売却可能資産	9,621	9,638	17	(2) 退職手当引当金	10,286	9,651	△ 635
2. 投資等	18,173	17,397	△ 776	(3) その他	0	0	0
(1) 投資及び出資金	5,468	5,468	0	2. 流動負債	4,562	4,816	254
(2) 貸付金	2,465	2,333	△ 132	(1) 翌年度償還予定地方債	2,044	2,820	776
(3) 基金等	9,268	8,657	△ 611	(2) その他	2,518	1,996	△ 522
(4) 長期延滞債権	1,375	1,314	△ 60	負債合計	32,149	31,953	△ 196
(5) 回収不能見込額	△ 403	△ 376	27	【純資産の部】			
3. 流動資産	18,192	19,928	1,736	純資産合計	234,315	238,071	3,756
(1) 資金	17,859	19,612	1,753	負債及び純資産合計	266,463	270,024	3,561
(2) 未収金	483	455	△ 28				
(3) 回収不能見込額	△ 150	△ 139	11				
資産合計	266,463	270,024	3,561				

※ 詳細は【付表】p42、p43 参照

用語説明

<p>【公共資産】</p> <p>有形固定資産・・・庁舎、保育所、学校、道路などの住民サービスを提供するために保有する土地・建物を取得価格をもとに減価償却を行い累計したもの</p> <p>売却可能資産・・・原則として、普通財産及び既に用途廃止が予定されている行政財産</p> <p>【投資等】</p> <p>投資及び出資金・・・第三セクター等への出資額について、時価のあるものは時価評価し、時価のないものは実質価額で評価して計上したもの</p> <p>基金等・・・特定の目的のために造成された基金</p> <p>長期延滞債権・・・収入未済額のうち、当初調定年度が前年度以前のもを計上したもの</p> <p>回収不能見込額・・・長期延滞債権のうち回収が見込まれない金額を過去の実績をもとに計上したもの</p> <p>【流動資産】</p> <p>未収金・・・地方税や使用料・手数料等の収入未済額を計上したもの</p> <p>回収不能見込額・・・未収金のうち回収が見込まれない金額を過去の実績をもとに計上したもの</p>	<p>【固定負債】</p> <p>地方債・・・地方債のうち、翌年度償還予定を除いたもの</p> <p>退職手当引当金・・・普通会計に属する職員の想定退職金相当額を計上したもの</p> <p>その他・・・支払いが確定している債務負担行為で1年を超えて支払いを予定しているもの</p> <p>【流動負債】</p> <p>翌年度償還予定地方債・・・地方債のうち、翌年度に償還が予定されているもの</p> <p>その他・・・支払いが確定している債務で1年以内に支払いや返済をしなければならない債務を計上したもの</p> <p>【純資産】</p> <p>純資産・・・資産と負債の差額。公共資産等の住民サービスを提供するために保有する財産の財源として見た場合、現世代が既に負担したもの</p>
---	--

【普通会計貸借対照表項目の対前年度増減等】

- 平成26年度末資産の総額は2,700億円で、前年度と比較して36億円増加しています。これは、主に公共資産が26億円増加したことによるものです。
 - 資産の内訳は、公共資産が2,327億円、投資等が174億円、流動資産が199億円であり、公共資産の割合が高くなっています。
 - 公共資産のうち売却可能資産(本報告書では、原則、普通財産及び売却処分も検討の選択肢としている行政財産)は、96億円です。
 - 公共資産は26億円増加しています。増加の主な要因は、有形固定資産が26億円増加したことがあげられます。有形固定資産は、教育分野において15億円、福祉分野において6億円増加しています。
 - 流動資産の増加17億円の主な要因は、財政調整基金の増加12億円があげられます。
 - 負債は、固定負債が271億円、流動負債が48億円、総額319億円であり、前年度と比較して2億円減少しています。
 - 固定負債の減少4億円の主な要因は、職員退職による退職手当引当金の減少6億円があげられます。
 - 純資産の総額は2,381億円と、前年度と比較して38億円増加しており、引き続き荒川区の財政の健全性は維持されています。
-
-

(2) 行政コスト計算書

行政コスト計算書とは、1年間の行政活動のうち、人的サービスや給付サービスなど資産形成につながらない行政サービスに係る経費(人件費、物件費、福祉給付等)とその行政サービスの直接の対価として得られた財源(使用料・手数料等)とを対比して示したものです。

<表1-2 普通会計行政コスト計算書の要旨>

(単位:百万円)

	平成25年度		平成26年度		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
【経常行政コスト】	78,170	100.0%	78,727	100.0%	557	
1.人にかかるコスト	15,043	19.2%	15,279	19.4%	236	0.2%
(1)人件費	13,758	17.6%	14,022	17.8%	264	0.2%
(2)退職手当引当金繰入	518	0.7%	446	0.6%	△72	△0.1%
(3)賞与引当金繰入額	767	1.0%	811	1.0%	43	0.0%
2.物にかかるコスト	18,615	23.8%	19,918	25.3%	1,303	1.5%
(1)物件費	13,192	16.9%	14,498	18.4%	1,305	1.5%
(2)維持補修費	316	0.4%	358	0.5%	43	0.1%
(3)減価償却費	5,107	6.5%	5,062	6.4%	△45	△0.1%
3.移転支出的なコスト	43,960	56.2%	43,128	54.8%	△831	△1.5%
(1)社会保障給付	27,336	35.0%	28,204	35.8%	868	0.8%
(2)補助金等	4,935	6.3%	5,101	6.5%	165	0.2%
(3)他会計等への支出額	9,122	11.7%	8,677	11.0%	△445	△0.6%
(4)公共資産整備補助金等	2,567	3.3%	1,147	1.5%	△1,420	△1.8%
4.その他のコスト	552	0.7%	402	0.5%	△150	△0.2%
(1)公債費(利払)	350	0.4%	310	0.4%	△40	△0.1%
(2)回収不能見込額	202	0.3%	92	0.1%	△110	△0.1%
【経常収益】	3,319	4.2%	3,371	4.3%	52	0.0%
使用料・手数料等	2,272	2.9%	2,295	2.9%	23	0.0%
分担金・負担金・寄付金	1,047	1.3%	1,077	1.4%	30	0.0%
【純経常行政コスト】 (経常行政コスト-経常収益)	74,851	95.8%	75,356	95.7%	505	△0.0%

※ 詳細は【付表】p44～p46 参照

※ 移転支出的なコストには、保育所などの運営、医療費助成などに要する「社会保障給付費」、各種団体への「補助金等」、国民健康保険事業会計などの「他会計への支出額」及び他団体での資産形成に支出した「公共資産等整備補助金等」が含まれます。

用語説明

<p>【人に係るコスト】 人件費・・・職員の給料や議員の報酬を計上したものの 退職手当引当金繰入・・・貸借対照表に計上した、普通会計に属する職員の想定退職金の増減額と当年度に支払われた退職金を計上したものの 賞与引当金繰入額・・・翌年度の夏に支払予定の期末手当、勤勉手当のうち、当年度に属するものを計上したものの</p> <p>【物に係るコスト】 物件費・・・物品の購入や業務委託料などを計上したものの 減価償却費・・・有形固定資産に計上した償却資産の、資産の価値減少分を見積もり計上したものの 維持補修費・・・施設の維持補修費などを計上したものの</p>	<p>【移転支出的なコスト】 社会保障給付・・・社会保障にかかる扶助費を計上したものの 補助金等・・・特定の団体や一部事務組合等への補助金支出を計上したものの 他会計等への支出額・・・特別会計等への繰出金を計上したものの 公共資産整備補助金等・・・他団体が荒川区からの補助金を財源として公共資産の整備を行ったものを計上している</p> <p>【その他のコスト】 公債費・・・地方債の償還に伴い支払う利息を計上したものの 回収不能見込額・・・当年度の不納欠損額、貸借対照表に計上した回収不能見込額の前年度と当年度の差額を計上したものの</p>
--	--

【普通会計行政コスト計算書項目の対前年度増減等】

- 平成 26 年度の経常行政コストは 787 億円で、人にかかるコストが 153 億円、物にかかるコストが 199 億円、移転支出的なコストが 431 億円、その他のコストが4億円となっています。
- 経常行政コストは前年度に比べて5億円増加しています。その内訳は、人にかかるコストが前年度に比べ2億円増加、物にかかるコストが 13 億円増加、移転支出的なコストが8億円減少、その他のコストが2億円減少などとなっています。
- 人にかかるコストの増加2億円の主な要因として、人件費が3億円増加したことがあげられます。
- 物にかかるコストの増加 13 億円の主な要因は、物件費が 13 億円増加したことがあげられます。
- 移転支出的なコストの減少8億円の主な要因は、社会保障給付が9億円増加したものの、他会計への繰出金が4億円、公共資産整備にかかる補助金が 14 億円それぞれ減少していることなどによるものです。
- その他のコストの減少2億円の主な要因は、回収不能見込額が1億円減少したことがあげられます。
- 経常収益は、使用料・手数料等及び分担金・負担金・寄附金に大きな増減がなかったため、前年度と比較してほぼ同額となりました。

(3) 純資産変動計算書

純資産変動計算書とは、貸借対照表の純資産の部に計上されている各数値が1年間でどのように変動したかを示すものです。これは財産と将来負担の差額であり、過去および現在の世代の負担を示すものとなっています。したがって貸借対照表の純資産の部の1年間の増減により過去および現在の世代が負担してきた部分の変動を把握することができます。

<表1-3 普通会計純資産変動計算書の要旨>

(単位:百万円)

	平成25年度	平成26年度	増減
期首純資産残高	233,388	234,315	928
純経常行政コスト	△ 74,851	△ 75,356	△ 505
財源調達	76,903	79,046	2,143
地方税	15,398	15,809	410
地方交付税	0	0	0
経常補助金	20,058	19,823	△ 236
建設補助金	1,117	1,237	120
その他	40,328	42,177	1,849
資産評価替・無償受入	257	17	△ 240
その他	△ 1,381	50	1,431
期末純資産残高	234,315	238,072	3,757

※ 詳細は【付表】p47 参照

用語説明

資産評価替・無償受入・・・売却可能資産の評価替えを行った評価差額や、寄附等により無償で受贈した資産の評価額を計上したもの

- 平成26年度の荒川区の純資産変動計算書によると、期末純資産残高が2,381億円と、前年度に比べて38億円増加しました。
- 行政サービスの提供に要した荒川区の純経常行政コスト753億円を賄う財源は、財源調達の総額791億円から公共資産整備の財源となる建設補助金(移転支出に係るもののみ)12億円を除いた779億円となりました。そのため、純経常行政コストを経常的な財源調達により、賄われていることがわかります。なお、移転支出にかかるもの以外の建設補助金は、建設に充てられることが明らかで、行政コスト計算書に計上しているコストに対応する財源ではないため除いています。

(4) 資金収支計算書

資金収支計算書は、歳計現金(＝資金)の出入りの情報を性質の異なる3つの区分、「経常的収支の部」、「公共資産整備収支の部」及び「投資・財務的収支の部」に分けて示すものです。

資金収支計算書に注記されている基礎的財政収支(プライマリーバランス)は、地方債の発行や償還等の影響を除いた財政収支で、次の式により計算されます。

・基礎的財政収支(プライマリーバランス)
＝「歳入総額－(繰越金＋地方債発行額＋財政調整基金等の取崩額)」
－「歳出総額－(地方債元利償還額＋財政調整基金等の積立額)」

<表1-4 資金収支計算書の要旨>

(単位:百万円)

	平成25年度	平成26年度	増減
1.経常的収支	6,460	7,678	1,217
2.公共資産整備収支	△ 2,078	△ 3,110	△ 1,032
3.投資・財務的収支	△ 3,988	△ 3,803	185
当期収支	394	765	371
期首歳計現金残高	2,080	2,474	394
期末歳計現金残高	2,474	3,239	765
(基礎的財政収支)			
収入総額	83,402	88,158	4,756
支出総額	△ 83,008	△ 87,393	△ 4,385
地方債発行額	△ 213	△ 3,005	△ 2,792
地方債元利償還額	2,502	2,354	△ 149
財調基金等増減額	802	987	185
基礎的財政収支	3,486	1,101	△ 2,384

※ 詳細は【付表】p48、49 参照 概略は【図1-5 資金収支の状況】p12 参照

用語説明

経常的収支・・・税金や施設利用料、事務手数料、補助金交付金などの収入、人件費や施設維持管理、医療費助成などの直接的な日常の行政サービスのための支出などの取り引きを計上したもの

公共資産整備収支・・・公共資産の整備のための支出と、その財源である補助金などによる収入についての取り引きを計上したもので、公共事業に伴う資金の動きを示したもの

投資・財務的収支・・・これまでの借入金の返済や貸し付けに係る支出、また、出資金や基金の積み立てなどの投資活動の他、公有財産の売却による収入などの取り引きを計上したもの

- 平成 26 年度の基礎的財政収支(プライマリーバランス)は、11 億円のプラスとなっています。
- 公共資産整備収支額は 31 億円の不足となっています。これは、公共資産等の整備が経常的収支、すなわち、一般財源で賄われたことを示しています。
- 投資・財務的収支額は 38 億円の不足となっています。これは、地方債の償還による負債の減、また基金の積立により将来への備えをしたことなどによるものです。

<図1-5 資金収支の状況>

